

# 情報モラルと道徳③ ～資料とのコラボを考える～

北川 忠



## 1 情報モラル4年「インターネットの落としあな」

26年度版の「ゆたかな心」4年情報モラルは、ネット使用上の安全への配慮について扱われている。資料のねらいは、「危険に出合ったときは大人に意見を求め、適切に対応する」である。家庭において、児童が使用するパソコンに適切なフィルターがかけられており、最適なウイルスソフトが入っていれば、ある程度の危険は回避できる。しかし、児童が単独でwebページを見ることは、4年生という年齢から考えて好ましいことではない。使用するのは人であるから、トラブルが発生すればたとえ児童であっても使用者の責任が問われることになる。だから保護者の管理下で使用し、「おかしいな」「変だな」と思える感覚と「危ないな」「やめておこう」と気づくことのできる感性を、早い時期に育てておくべきではないかと思う。つまり、自己管理できる力、節度ある生活である。そこで今回、コラボする内容項目は1-(1)にすることにした。

## 2 資料「心の体温計」1-(1)

本資料は、「度がすぎる」行為は後で困ることになるから、すっきりした生活を送るために自分で限度を決めて守ることの大切さに気づかせる資料である。この「度がすぎる」ということと、webページの危険回避をコラボさせてみることにした。情報モラルを取り上げる上で使用するキーワードは「有料」である。お金がかかれば後で困ることになるから、児童にもつながりが分かりやすくするであろう。

## 3 ねらい

授業のねらいは以下のとおりである。

◎自立をめざし節度を守り、すっきりした生活を送ろうとする。

- ・節度のある生活と度がすぎる生活の違いに気づく。
- ・インターネットでも節度が必要なことがわかる。
- ・度がすぎる生活をしていると後で困ることが

わかる。

- ・自分でできまりをきめて守り、すっきりとした生活を送ろうとする。

## 4 指導の流れと板書のポイント

導入でテレビの見すぎなど「○○の○○すぎ」について、親から注意された経験を想起させる。その結果どうなるかについても考えさせ右上に書く。これが板書の第一ポイント。続いて資料「心の体温計」を読む。黒板中央に体温計を貼り、主人公がすっきりした生活を送れるようになった理由について考えさせる。児童から出た考えは右下に書く。これが第二ポイント。ここまでを開始から20分くらいで通過したい。

次に資料「インターネットの落とし穴」を読む。「有料」の文字カードを黒板左上に貼り、主人公が偉いなどと思えることは何かについて問う。すると、「おかしいと思ったときに父親を呼んだこと」などに気づく。これを左下に書く。これが第三ポイント。父を呼ばずにそのまま続けるとどうなるかについて問えば、有料のキーワードが提示されているので「お金がかかる」や「親に迷惑がかかる」「しかられる」等の後で困ることが分かる。これを黒板の左上に書く。これが第四のポイント。最後に中央に貼った体温計の平熱のラインを延長し黒板の左はじから右はじまで伸ばしていく。すると黒板全体には、節度を守る生活を送るために度がすぎないようにすることが示されていることに気づくだろう。終末で「自分の生活でどんなことを工夫するか」についてワークシートを書かせれば、児童は自分の生活をふりかえり、よりよく生きるための工夫を考える。ワークシート記入には15分程度の時間はぜひ、とってほしいと思う。

## 5 授業後も定期的にチェック

誘惑に負けずに、節度を守った生活続けることは難しい。つい流されてしまう心はだれにでもあるのではないか。だからこそ一人のときに自分を止められる節度を大切に扱いたいと思う。